

答申（案）（子ども・教育・文化専門部会）

当該分野においては、子ども、教育、文化に関する施策が示されている。本市が継続的に発展するためには、次代を担う子ども達が自らの力で夢や希望を育くむとともに様々な分野で活躍することができる人材を育成することが重要である。さらに、課題解決型の施策だけでなく、子どもの成長を楽しむことのできる施策に積極的に取り組み、子育てが楽しくなるまちづくりを行う必要がある。

近年、社会問題となっている待機児童対策については、施設の充実に取り組んできたことは評価するが、一方で、保育士の処遇等の改善がなされ、保育士の確保に取り組まなければ保育の質の低下を招きかねない事を指摘しておきたい。子どもの貧困対策については、貧困状態にある子どもだけでなく、若年出産・妊娠といった問題を抱えた母親に対しても負の連鎖を断ち切るためのアウトリーチが必要であり、子育て世代包括支援センターには、そのような機能を備えることを期待する。成長する過程で壁にぶつかる子ども達には、行政だけでなく、地域で活動する団体と協働で寄り添う取り組みが必要である。

核家族化が進行する中において、学校を学びや育ちの拠点として多世代間の交流を推進することで、人間性豊かな子ども達が育くまれるだけでなく、しまくとうば等の文化も継承されることが期待される。そのためには、行政の各分野に横串を通し、それぞれ施策が連動して機能することが重要である。

上記の内容も含めて、個別に列挙すれば次のようになるので参考にされたい。

◇21 それぞれの子どものそれぞれの時期に適した居場所のあるまちをつくる

- ・ 施策名称は、「それぞれの」を重ねているため、「すべての子どものそれぞれの時期に適した居場所のあるまちをつくる」への修正を検討してもらいたい。
- ・ 積極的に子育てが楽しくなる、子どもを育てることに幸せを感じることができる施策に取り組んでももらいたい。
- ・ 取り組みの方針において「本市全体の教育・保育の質の向上を図る」ことを評価するが、柱書きの「必要なサービス」は誤解を招く可能性があるため、修正を検討してもらいたい。
- ・ 就学前の量の充実に対応していることは評価しているが、待機児童解消の取り組みの両輪として施設の充実とともに、「保育士の確保」にも取り組んでももらいたい。
- ・ 子育て世代包括支援センターについては、「支援」に重点が置かれているが、「課題の予防」についても取り組んでももらいたい。特に、若年出産・妊娠といった問題を抱えた母親に対し、負の連鎖を断ち切るためのアウトリーチを検討してもらいたい。
- ・ 特別支援を要する子ども達に対しての取り組みを強化していくという視点を検討してもらいたい。

◇22 必要な支援が必要な子どもや保護者に届くまちをつくる

- ・ 施策名称について、表現の工夫が必要である。「支援が必要な子どもや保護者に必要な支援が届くまちをつくる」への修正を検討してもらいたい。

- ・児童虐待を発見した場合の「つなぎ」や児童相談所以外の子どもの逃げ場「シェルター」などの文言を入れてはどうか。例えば、「関係機関と連携しながらシェルターの確保に努める」などの表現が考えられる。
- ・子どもが壁にぶつかったときに、寄り添える地域の団体と連携することも検討してもらいたい。
- ・事業継続に向けた財源の確保に努めるという表記よりも「こどものみらい応援プロジェクト基金」の名称の表記を検討してもらいたい。
- ・政策や施策の名称を実感できるよう「子育て支援センターの利用者の満足度」等の指標の設定を検討してもらいたい。

◇23 自ら学び心豊かに成長する子どもを応援するまちをつくる

- ・「問題行動等への取り組み行う」が施策名称「自ら学び心豊かに成長する」と整合性が取れないため「心身の健やかな成長」「知・徳・体を育む」等の意味合いを持った前向きで、積極的な表現への修正を検討してもらいたい。
- ・学校全体として人権教育の推進やいじめ防止に対して全職員で課題を共有するとともに、地域の方々を評議員に委嘱し、「チーム学校」として子ども達に寄り添っている。そういったことが、原案から読み取れないので、施策概要に記述してもらいたい。
- ・ICT教育の充実の意味が分かりづらいため、説明書きを記述してもらいたい。
- ・指標について、施策名称である「心豊かに」「自ら学び」を実感できる指標の検討が必要でないか。具体的には、「学校生活に満足しているか」など全国学力・学習状況調査において調査されているアンケートの項目から生活質問に関する指標の抽出が検討してもらいたい。

◇24 学校施設の補修・整備をすすめ、安全安心な教育環境があるまちをつくる

- ・「老朽化した単独調理場」を小規模給食センターに再編することについて、給食センターに関する指標を設定し進捗状況が見えるようにしてもらいたい。
- ・地震等の災害時において学校が避難場所となるため、他の施策においても学校施設と防災との関連性を表現してもらいたい。

◇25 どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる

- ・生涯学習は、固有名詞として習い事のイメージが強いため、政策名称の「生涯学習」を「生涯にわたる学習活動」への変更を検討してもらいたい。
- ・施策概要において「子どもから青年層を巻き込んだ事業を実施することで、若い世代と高齢者等の世代間交流を促し」とあるが、「子どもから高齢者層を巻き込んだ幅広い世代間交流事業」への変更を検討してもらいたい。
- ・現状と課題において、「自治会・サークル活動等の停滞、後継者不足、地域の人材が地域で活動できる機会の」とあり、課題と要求されていることが混在しているため、「自治会・サークル活動等の停滞、後継者不足などが問題化されており、地域の人材が地域で活動できる機会の」への変更を検討してもらいたい。

- ・「次世代への後継者の育成」を「次世代を担う後継者の育成」への変更を検討してもらいたい。
- ・当施策においては、人材育成がポイントと認識するが、人材育成を取り組みの柱の前面に出し、それに合わせた指標の設定を検討してもらいたい。
- ・魅力ある図書館づくりを地域に根差した個々の図書館の地域特性を持たせる等の具体的な方向性を明示してもらいたい。各図書館が取り組んできたことを明示してもらいたい。
- ・図書館来館者数よりも、図書館経営の実態がみる指標の設定を検討してもらいたい。

◇26 どこでも誰でも生涯スポーツができるまちをつくる

- ・公園でスポーツ・レクリエーションが盛んに行われている現状があるため、公園行政との連携を検討してもらいたい。

◇27 学校が学びや育ちの拠点となるまちをつくる

- ・学校を拠点とすることを改めて明示し、青少年健全育成やスポーツ・レクリエーションを再掲していることは評価できる。「生涯学習関連事業の充実」についても学校関連部分を抜き出して再掲することを検討してもらいたい。
- ・学校のオープン化、プラットフォーム化については、キーワードとして表現の追加を検討してもらいたい。

◇28 文化が保存され継承されるまちをつくる

- ・政策で「伝統文化・芸能にふれあい創造する」では、何を創造するのか不明瞭なので、「伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造する」への変更を検討してもらいたい。
- ・現状と課題で「しまくとうばを主に使う人が減少している傾向にある」が、学校現場では、しまくとうば普及冊子を使って普及継承に取り組んでいる現状の表現の追加を検討してもらいたい。
- ・しまくとうばを保存継承していくため、文化としてしっかりと定義してもらいたい。
- ・世界遺産への登録を機運として入館者数が伸びた現状があるのであれば、そのような表現の追加を検討してもらいたい。

◇29 市民の文化芸術・芸能活動を支援するまちをつくる

- ・那覇市民会館は、県民市民の文化活動を披露する大きなステージであった。平成 33 年度に新文化芸術発信拠点を整備する方針であるので、安心している。しっかりと取り組んでももらいたい。
- ・「ワークショップ等のような取り組みの中で、市民が文化芸術にふれあい、伝統文化の保存・継承・発展に取り組めます。」の「ふれあい」「取り組めます。」2つの文章が一つになっているため、適切な表現への修正を検討してもらいたい。